

# 中国地域ニュービジネス優秀賞

## 表彰事業

自社ブランドの確立により、地場産業から全国展開へ

## 有限会社吉原木工所

専務取締役 よし はら 吉原 けい じ 敬司



## 事業内容

住宅の洋風化により和室が少なくなり、組子という日本の伝統技術も消えかけていた。そこで、欄間のかわりには照明や衝立などインテリアとして現代の暮らしに合う組子を模索してきた。特にリビング障子はこれまでとは違った洋風のシーンにも馴染むよう伝統紋様を大型化し、現代風の障子としてデザインを考案。さらに、独自の刃物を設計・開発することで一部を機械化し、コストダウンを実現している。従来は地元工務店に受注を依存していたが、地元工務店だけに頼らず、新規顧客を開拓すべく、HPに写真と価格を掲載したところ、全国の施主から注文が入るようになった。若年層にも受け入れられ、30～40代の家づくりに幅広く取り入れられている。設計士や空間デザイナーからも声がかかるようになり、彼らが求める特殊案件にも対応できるようになった。また、百貨店の展示会にも出展し、一般消費者の需要掘り起こしにも力を入れている。デザインを含めたものづくりの提案ができるようになり、下請型から提案型のビジネス展開ができるようになった。工場は棚田百選で知られる室谷地区に位置し、組子職人を志す若い男性・女性スタッフが年々増えている。

【推薦団体】山陰合同銀行 三隅支店

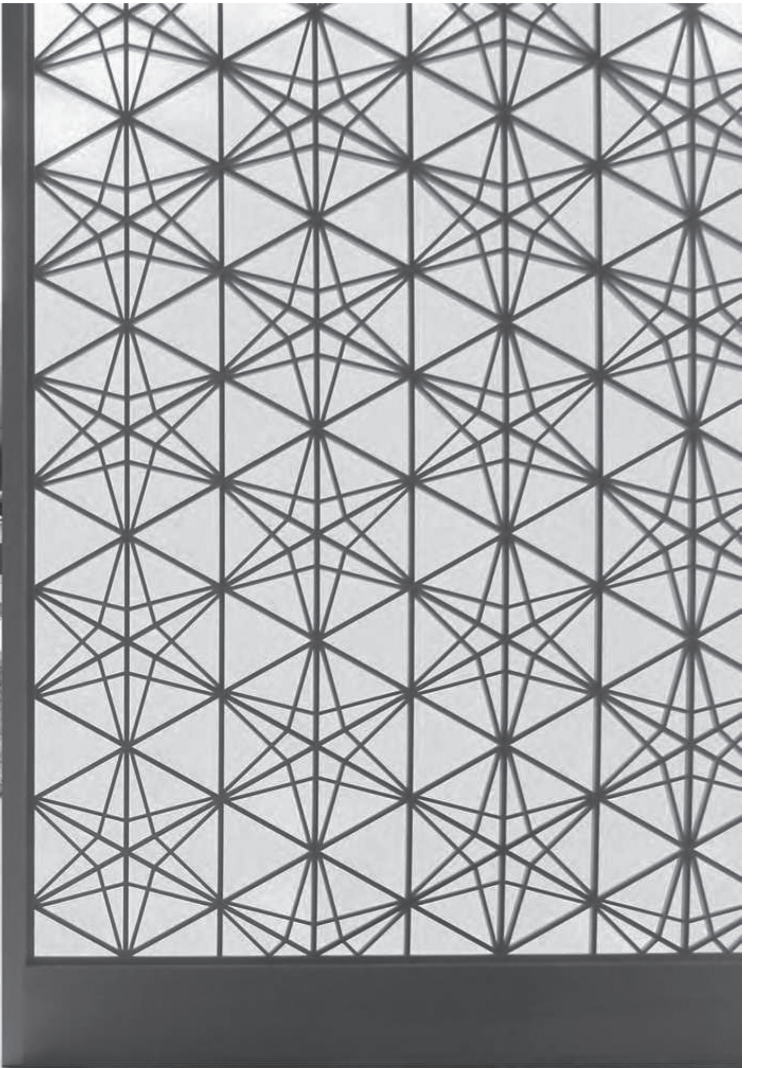
## 受賞理由

- 日本の伝統技術である和室の欄間組子を現代風のインテリアとして復活させ、かつ独自のデザインで設計士や空間デザイナーにも受け入れられ、組子部門が付加価値の高いニュービジネスとして確立している。
- 組子障子のグッドデザイン賞受賞や、HPやSNSによる情報発信、展示会出展などを積極的に行うことにより、海外からの問い合わせが増え、すでに北欧のデザイナーや中国、台湾などの商社との取引も始まり、海外市場も視野に入れたニュービジネスが展開されている。
- 工場の立地が中山間地域であるが、組子職人を志す若者が全国から集まり、組子技術を伝承する仕組みをつくるとともに、地域振興にも貢献している。

## 会社概要

1958年に創業し、1996年に法人化。これまでは地域密着型の営業で地元工務店の下請けとして木製建具・家具を手掛けてきた。2002年、それまで弊社になかった組子部門を新たに立ち上げ、作品づくりを積み重ねながら積極的に販路開拓に乗り出した。現在では組子ビジネスが全体の70%を占めるまでに成長した。室谷地区は棚田に囲まれた山あいであるが、近年は全国から設計士や空間デザイナーといった専門業者、また海外のエンドユーザーまでも一目組子を見ようと工場見学者も多くなった。特殊案件の依頼も年々増えており、いま更なる制作技術とデザイン性向上が求められている。私たちが創造するこれからの組子の世界観をお客様に肌で感じていただくため、ショールームを新設予定。ものづくりに携わるスタッフとお客様とがふれ合えるようワークショップを開催し、棚田の景色、職人、木、現場まるごとをここから発信していきたい。

会社所在地	〒699-3303 島根県浜田市三隅町室谷912番地1		
T E L	0855-34-0227	U R L	<a href="http://yoshiharawoodworks.com/">http://yoshiharawoodworks.com/</a>
会社設立	1996年7月	従業員数	12名
資本金	5百万円	売上高	120百万円(2018年6月期)



## リビング障子

Living shoji

伝統が醸す大胆なグラフィック。  
だんらんを彩る進化した障子。

「ふらふらしたカーテンより、リビングにもすっきりと障子をたてたい。」  
一昔前の家づくりでは考えられないような組み合わせの希望も  
現代建築においてはお客様から聞けるようになりました。

建具職人として、ならば現代空間に合う

モダンな障子を作りたいと思いました。

じゅうたん  
絨毯やカーテンに美しい刺繍があるように、

障子にもさまざまなデザイン模様があっていい…。

建具職人がくみこらんま組子欄間に描いた伝統のグラフィックデザインを

“床の間”から“リビング”へ。

和洋折衷の極みと言える今、日本人がこよなく愛した「障子」の意匠は  
建築の新たなスタイルとなって生まれ変わります。